

シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」

東洋学・アジア研究連絡協議会会長 池田知久

日本と世界の東洋学・アジア研究の衰退の危機が指摘されて、すでに久しい。

このような危機の到来は、東洋学・アジア研究の研究者一人一人に対して、自己の学問を根本的に再検討しつつ、この危機を克服し関連する学問の新たな振興をめざすことを迫るものであります。それと同時に、自己の学問的ディシプリンや所属研究機関・学協会の相異を超えて、多くの研究者が相互に連携・協同しあいながら、これに立ち向かっていくことの必要性を教えるものでもあります。

今日、この危機の克服方向の一つとしては、かつての日本の東洋学・アジア研究が、西欧に由来する普遍主義的な近代的学問を相対化して、時空を超えた世界の普遍的真理という一色の絵具で塗りこめられることのなかった長所を活かしつつ、東洋・アジアにおける個別的な文化現象の価値を内在的に再構成しようと務めること、このことが重要なのではないかと思われます。こうした個別的な文化研究の積み重ねを総括していく中で、東洋・アジアから世界に向かって発信する新しい人間科学 (Human Sciences) の振興が、必ずや可能になっていくものと期待されます。

私たち、約40の学協会は、2004(平成16)年9月、東洋学・アジア研究連絡協議会を設立しました。その目的は、東洋・アジアの諸文化を各種各様のディシプリンで研究する学協会が、将来におけるこの学問の一層の振興を図り、そのために相互の学術交流と連絡協議を行い、また国際的な東洋学・アジア研究の動きにも対応すること、などにありました。

東洋学・アジア研究連絡協議会は、以上の設立趣意と現状への課題意識に基づき、模索のための具体的な活動の一環として、日本学術会議「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」との共催により、下記のようにシンポジウムを開催いたします。講師は、近年、各分野において活発な研究活動を展開して新たな地平を切り拓こうと努めておられる、5名の先生にお願いしました。

研究者・学生・市民のみなさん、お誘いあわせの上、振るってご参加下さい。

シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」

日時：2013年12月14日(土)午後1時30分～5時

会場：東京大学法文2号館1番大教室

司会：池田知久(山梨大学教授・東洋学・アジア研究連絡協議会会長)

挨拶：久保 亨(信州大学教授・日本学術会議「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員長)：
人文学的アジア研究の現状と課題、そして展望

講師：村尾誠一(東京外語大学大学院教授・和漢比較文学会)：和漢比較文学研究の現状と課題

柴山 守(京都大学特任教授・東南アジア学会)：「東西回廊」再考——東南アジア大陸部における文化交流の歴史的動態をよむ

井口和起(京都府立大学名誉教授・東アジア近代史学会)：東アジア近代史の可能性

斎藤 明(東京大学大学院教授・日本印度学仏教学会)：仏教思想は甦るか——仏典、翻訳、そして現代

内田慶市(関西大学教授・東アジア文化交渉学会)：文化交渉学と言語文化接触研究——周縁からのアプローチ

—入場無料・連絡不要—

問い合わせ：東洋学・アジア研究連絡協議会事務局

(一般財団法人東方学会内：千代田区西神田2-4-1、Tel.03-3262-7221、E-mail: iec@tohogakkai.com)